

きん たか やま

山鷹金

令和8年(2026)4月1日発行

通巻第26号

発行所 若宮八幡社社務所
〒873-0004
大分県杵築市大字宮司336番地

発行者 宮司 紀田兼宣
電話 080(5503)3488

金鷹山 若宮八幡社 検索

神社公式ホームページ開設しております。御覧ください。
Instagramはじめました。御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう



大分県無形民俗文化財 御田植祭

祭典の予告

四月五日(日)

祈年祭 引き続き 和漢将軍祭

午後二時 大分県無形民俗文化財

御田植祭(御田植祭はどなたでも拝観戴けます)



若宮八幡社神職・総代名簿

- 宮司 紀田兼宣
- 禰宜 紀田兼齋
- 総代長 矢野守光(宮司区)
- 宮司、馬場尾、守末、中ノ原、菅尾
- 総代 本多泰久(宗近区)
- 宗近、錦江、杉山、東下司、西下司、下原、中平
- 総代 井上 剛(南台西区)
- 南台西、南台東、北台、西上、仲町、天満、弓町
- 総代 岩尾重義(魚町区)
- 魚町、錦城、北浜、中央、城山、谷町、塩田、据場
- 総代 福村 滋(西新町区)
- 西新町、古野、札ノ辻、北祇園、南祇園、煙硝倉
- 総代 阿部俊治(船部区)
- 船部、大片平
- 総代 阿部幸蔵(西溝井区)
- 西溝井、二ノ坂
- 総代 藤原清治(中津屋区)
- 中津屋、東溝井
- 総代 矢野 勲(岩谷区)
- 岩谷、鴨川

若宮八幡社奉斎会 役員名簿

- 会長 吉水謙二
- 若宮八幡社前総代長
- 副会長 矢野守光
- 若宮八幡社総代長
- 顧問 八坂恭介
- 地元有識者
- 顧問 阿部順治
- 地元有識者
- 理事 小田和人
- 地元有識者
- 理事 安倍雄次
- 開運祖霊講副会長
- 監事 本多泰久
- 若宮八幡社総代(一般会計)
- 監事 井上 剛
- 若宮八幡社総代(斗初穂)
- 事務局 紀田兼宣
- 若宮八幡社宮司

敬称略

奉斎会だより

奉斎会の主催 紀元祭を斎行

初代神武天皇のご聖徳を顕彰し
国歌『君が代』斉唱と祭典唱歌『紀元節』を奉唱

去る二月十一日(水・建国記念の日)に、若宮八幡社奉斎会による神事「紀元祭」が斎行され、奉斎会会員また氏子崇敬者多数の参列のもと初代神武天皇のご聖徳に感謝申し上げます。

神事は本殿に於いて、修祓(おはらい)、祝詞奏上に続いて参列者一人ずつの玉串拝礼を行いました。

引き続き、顕彰式典により、「国歌 君が代斉唱」、「祭典唱歌 紀元節奉唱」、「聖寿萬歳」の後、紀田宮司の紀元祭に関する講話を以て、取り納められました。

もともと、二月十一日は「紀元節」と称され、「日本書紀」が伝える初代神武天皇のご即位日として定められた祭日です。

日本書紀に記述のある神武天皇ご即位日の「辛酉年」を新暦に換算すると紀元前六六〇年の二月十一日に当たること由来します。

神武天皇は鵜葺草葺不合命(宮崎県鶴戸神宮のご祭神)の第四皇子としてお生まれになり、御年四十五歳のとき高千穂の宮をお立ちになり大和の国を目指し、幾多の艱難辛苦を乗り越えて、奈良県橿原の地におきまして初代天皇としてご即位されました。

詳細は下記に紹介します「常若講座」で古事記を読み解きますので改めてご説明申し上げますことと致します。

祭典唱歌「紀元節」

高崎正風作歌 伊澤修二作曲

- 一、雲に聳ゆる高千穂の高嶺おろしに草も木もなびきふしけん大御代を仰ぐ今日こそ楽しけれ
- 二、海原なせる埴安の池の面より猶ひろき恵みの波に浴みし世を仰ぐ今日こそ楽しけれ
- 三、天つ日嗣の高御座千代萬世に動きなきもとい定めしその神を仰ぐ今日こそ楽しけれ
- 四、空に輝く日のもとのもとの萬の国に類なき国の御柱たてし世を仰ぐ今日こそ楽しけれ

『常若講座』をお受けになりませんか?

三か月に一度、日本の神話「古事記」を紐解いております

若宮八幡社奉斎会が主催する「常若講座」についてご紹介致します。
「常若」とは、伊勢神宮の二千年に一度執り行われる「神宮式年遷宮」に代表されるように、「常に瑞々しく」あるという意味です。



天孫降臨

この言葉に因み「常若講座」を年に4回(一月・四月・七月・十月)開催し、神道や日本文化に関する勉強会を行っております。

現在は、日本神話「古事記」を紐解く勉強会を企画し、天地開闢から国生み、神生みへと進み、日本国土の成り立ちや神様がお生まれになられた経緯を勉強し、過日開催された第六回常若講座で、「火の迦具土神」をお生みになつて伊邪那美神が亡くなられたところまで進みました。あと数回かけて初代神武



神武天皇

この常若講座は奉斎会会員のみなさんだけでなく、ご参加が出来ますので皆様のご参加をお待ちしております。今までの講座資料は公式HPでご覧いただけます。

若宮八幡社奉斎会は、令和六年七月に設立発会された組織です。
杵築市民は勿論のこと、どなたでも入会可能で、現在凡そ九十名の方が入会されており、

幡社御鎮座以来の信仰・歴史・伝統を守り、所蔵の文化財を後世に伝え、温故知新の精神を以て、神社の興隆を図るために必要な事業を企画し、実施することを目的としており、主な活動としては…

- ① 例大祭をはじめとする神事への奉斎
- ② 奉斎会大祭の斎行及び総
- ③ 「常若講座」の開催と受講
- ④ 夏越大祓・年越大祓への参加加勸奨
- ⑤ 社報「金鷹山」を毎月お届け
- ⑥ その他ご神徳の発揚を目的とした事業

奉斎会への入会方法

- 公式HP「金鷹山 若宮八幡社」で検索の上、『奉斎会』項目の中の『入会申込票』をダウンロードして、お名前・住所等を入力して申込み戴けます
- 社頭でも『入会のお勧め資料』を常時配布しております
- 若宮八幡社にお電話くだされば、直接入会一式資料をお届け致します

若宮八幡社奉斎会 入会申込票

令和 年 月 日

ふりがな		
芳名 (姓)	(名)	
生年月日	大正 昭和 平成 令和 年 月 日	生まれ
会社名		
設立日	大正 昭和 平成 令和 年 月 日	設立
住所	〒 - - 都道府県 市区 番地【マンション名等→】	
連絡先	電話 - - / mail @	
お届け先	<input type="checkbox"/> ご自宅 <input type="checkbox"/> 会社 <input type="checkbox"/> その他()	
会員種別	<input type="checkbox"/> 正会員(年会費5,000円) <input type="checkbox"/> 家族会員(年会費2,000円)	

事務局欄	領収書	PC入力	会員証	芳名録	年会費

送信先 FAX 0978-69-7035 (宮司携帯 080-5503-3488)

御創建1,040年を寿ぎ式年大祭を斎行

多岐に亘る記念事業を完遂しました 新嘗祭・例大祭・正月の奉献のご報告

例大祭では神賑として池坊別府支部による生け花展示・ゲートボール大会・第2回弓道大会(写真3・4)を開催
若宮広場にある獸魂碑(写真1)では「獸魂祭(写真2)」を斎行し、牛馬に対する慰霊を行いました
令和17年度(西暦2,035年度)には御創建1,050年記念事業を展開してまいります

昨年(令和七年)は、当社の元宮である浜田社が、京都石清水八幡宮からの勧請により御創建されてから一〇四〇年の嘉年を迎えました。この佳き年を寿ぎ多岐に亘る記念事業がこの度竣功致し、旧臘十二月六日(土)斎行の例大祭に合わせて、御創建一〇四〇年式年大祭を斎行の上、左記の事案の完遂を神様にご奉告申し上げました。《完遂した記念事案について》

事案① 和漢將軍社(境内末社)
七四〇年式年大祭の斎行
昨年の三月十七日に斎行

事案② 照月八幡社(飛地境内地)
改修(令和六年度に施工)

事案③ 境内マップ(案内図)の作製
併せて案内看板を設置

事案④(写真5・6) 拜殿屋根(鬼瓦を含む)改修
多年に亘る雨と白蟻による被害により腐食した部分の改修工事を行った

事案⑤ 所蔵文化財の研究に着手
兼務神社である若八幡本社の棟札調査
(詳細は4頁に掲載)

以上の5つの事案を行いました。が、昨今の時節を鑑みまして、氏子崇敬者に対する奉賛活動は行わず、当社の自己資金で充てましたが、来る令和十七年度(西暦二〇三五年)は、御創建一〇五〇年を迎える運びでありますので、その折には氏子崇敬者各位にはご奉賛のご依頼をさせていただきますこと何卒ご賢察のほどお願い申し上げます。

昨年の十一月二十三日(日・勤労感謝の日)に、新嘗祭を斎行、十二月六日(土)には例大祭(併御創建一〇四〇年式年大祭)を斎行に当り、氏子崇敬者各位からは、たくさんの奉献を賜りましたこと篤く感謝申し上げます。

【新嘗祭 奉献者芳名】

- 矢野 守光 様
- 矢野 芳郎 様
- 吉水 謙二 様
- 内野由美子 様
- 河村 全明 様
- 吉田 生二 様
- 藤原 清治 様
- 矢野 幸藏 様
- 阿部 重徳 様
- 阿部 秀子 様
- 後藤 澄雄 様
- 龍堂 澄雄 様
- 稲員 正友 様
- 清水 文生 様
- 徳久 英雄 様
- 山本 圭三 様
- 藤原 兼宣 様
- 紀田 兼宣 様
- 豊予農場 様
- オレンジ農園 様
- 徳一 様
- 大分県神道青年会 様
- (有)中野酒造 様
- (有)土谷商店 様
- 萬力屋 様
- とまや茶舗 様
- (有)三晃堂印刷 様
- ジェイエイフーズおおい 様
- J A 杵築支店 様
- きつき紅茶 様
- やいまやま 様
- 大分水産(有) 様
- 綾部味噌醸造元 様
- 鈴木養鶏場 様
- 鈴木 屋 様
- 大分県漁業協同組合杵築支店 様

(有)高橋水産 様
かどフラワー 様
松山堂 様
今村農園 様
アドバンストメディアカル
コミュニケーションス 様
大黒鮮魚店 様
(順不同)

【例大祭 奉献者芳名】

- 若宮八幡社奉斎会 様
- 浜田社 様
- 若八幡本社 様
- 池坊別府支部 様
- 杵築市弓道連盟 様
- J A 杵築支店 様
- (有)北村建設 様
- 元島謙一郎 様
- 平野 泰範 様
- (有)高橋水産 様
- かどフラワー 様
- 松山堂 様
- 今村農園 様
- アドバンストメディアカル
コミュニケーションス 様
- 大黒鮮魚店 様
- (順不同)
- 溝部 正 様
- 齊藤 凜 様
- 齊藤 佑 様
- 田邊 文夫 様
- 古田 久年 様
- 井上 剛 様
- 東照寺征生 様
- 河村 全明 様
- 守末 卓広 様
- 清水 正友 様
- 門 正 様
- 中山 豊洋 様
- 酒井 臣司 様
- 田邊 重徳 様
- 阿部 兼宣 様
- 紀田 兼宣 様
- 財前 孝行 様
- 高橋 政明 様
- 大鳥 末廣 様
- 梅野 敏明 様
- 高良 大社 様
- (株)民俗工芸 様
- (有)北村建設 様
- かどフラワー 様
- (株)山 功 様

【令和八年正月 奉献者芳名】

- (順不同)
- 白井商店 様
- (株)杵築建設 様
- 国東観光バス(株) 様
- 税理士法人LUNASOL 様
- ティールファシリティーズ 様
- (順不同)



写真2 獸魂祭



写真1 獸魂碑



写真3 杵築市弓道連盟会長による矢渡し



写真4 第2回若宮八幡社例大祭弓道大会



写真5 改修中の拜殿東側



写真6 改修中の拜殿全景

兼務神社の探訪

現在、杵築市内に十一社、宇佐市安心院町と院内町に十三社の合計二十四社の兼務神社の宮司としても奉職しており、ここに二社の兼務神社を紹介させていただきます。

【若八幡本社】

鎮座地 杵築市一中一、二二三番地

御祭神 大雀命 菟道稚郎子

宇礼姫 久礼姫(四柱)

御由緒 本務神社の若宮八幡社は、はじめから現在の地に鎮座されてはおりません。遡ること寛和元年(西暦985年)に、京都石清水八幡宮の四柱の御尊像を勧請し、現在の浜田社(南杵築下司)に鎮座したことに始まります。その後、天喜五年(西暦1057年)に生地村岳に遷座、次に承安三年(西暦1173年)に2度目の遷座したところが現在の若八幡本社です。そして嘉暦元年(西暦1326年)に3度目の遷座を迎え、現在の金鷹山にお遷りになる一五三年間に巨り中村をお護りになり、今もそのご神徳を普くお授けになっております。

【三女神社】

鎮座地 宇佐市安心院町下毛九四二番地

御祭神 田心姫命 湍津姫命 市杵嶋姫命

ほか十柱(十二柱)

御由緒 神代の昔、高天の原に於いて、天照



三女神社

杵築市中鎮座 若八幡本社 記念事業として所蔵する棟札の調査

宇佐市安心院町鎮座 三女神社 御篤志により境内諸整備完了

由緒にもありますように、今年(嘉暦元年(西暦1326年))に金鷹山にご遷座してから、七〇〇年の嘉年を迎えることを寿ぎ、若八幡本社で所蔵する棟札を調査してまいります。



若八幡本社

棟札とは本殿などの建物を建築するにあたり、普請の目的・年月日・施主・棟梁名などを墨書し、棟木に付された板で、その神社の歴史を伝える「建物の戸籍」とも呼ばれており、貴重な文化財です。



若八幡本社所蔵の棟札8枚

皇大御神は、素盞鳴尊と誓約の結果、三女神をお生みになりました。

そもそも三柱山三女神は、古来からの言い伝えに曰く「即ち日神(天照皇大御神)の生みませる三女神を以て葦原の中津国の宇佐島に天降り居さしむ云々……」とあり、宇佐島とはこの地宇佐郡安心院邑(当時)、当三柱山一帯とされ、安心院盆地を一望する聖地で菟狭津彦・菟狭津媛は、三女神を祖神とするが故に全国唯一の三女神の御名前を持つ神社であり、水沼の君たちがこれをお祀りし、今日に至る……と伝えられております。

境内は古代遺跡の面影を漂わせ、「三柱石」や「皮籠石」など多数が点在している。

江戸時代に至り、島原藩主累代これを崇敬し、三女神宮との異名を持ち、多くの末社を数え二十二ヶ村の御祭神として崇敬せられると伝わる。(境内の由来から抜粋)

毎年、十月下旬に例大祭が斎行されており、三女神を三基の神輿にお遷し申し上げ、

下社までのお下り神事がある。

昨年は、近隣氏子崇敬者の御篤志を以て下社の神楽殿・神輿殿また上社の整備が為されたこと、これ偏に皆様方のお志の賜物と深く感謝申し上げます。



新しくなった神楽殿

編集後記 紀田宮司のつぶやき

当たり前の日常にこそ詰まっている幸せ

▲毎朝、ご神前で朝御饌祭に奉仕するために玄関を出るときに休むことなく新聞が配達されている。▲その朝御饌祭を終えて食卓に着くと朝ご飯が戴ける。▲今日も一日頑張るぞ！とお勤めできるご先祖様からお預かりしているご社頭がある。▲夜、温かい風呂に入り、気持ちよく床に就く。▲何気ない日々を送っていたが、昨年の暮れ自身の不徳により一週間の入院を余儀なく受け入れた。▲入院中なので当然のことながら色々制約があり、不自由な思いをしてきたその時に聞いたラジオで、パーソナリティーが番組の冒頭「当たり前の日常にこそ幸せが詰まっている……」と言いなながら番組が始まった。▲放送を聞いていたうちに、今までの日常がいかに有難いものかを痛感させられた。▲毎日の日本人としての営みを行うために、どれだけの人々の関わりがあるのだろうか。恐らく日本国民のひとり一人が携わっているのだと思ひ知らされました。▲今までの日常に感謝。そして入院中も献身的にお守りいただいたお医者さん・看護師さん・理学療法士・事務員の皆さん本当に有難うございました。▲昔、神奈川県の神社でお勤めしていた時の上司から「お祭りごとは準備八割だ」と戒められたことも頭によぎって来ました。▲爾来、自分への戒めとしてお祭りごとは8・1・1と念じて奉仕を行っている。▲神事への案内状の発送・神饌の準備・境内の清掃など祭典前の諸準備に8割・神事当日の確認と厳肅な斎行に1割・そして神事後に事後挨拶と礼状などの発送などの手続きに1割。▲勿論、神事前・当日・神事後それぞれに万端取り進めているのだが、やはり事前の諸準備には出来る限りのことは努めていかねば……と肝に銘ずる日々である。▲それによつて毎朝の朝御饌祭を始め、年間の恒例神事も、ご先祖様から受け継いだ一〇〇〇年を超える伝統を護持しながら、氏子崇敬者に気持ちよくお参り戴けるご社頭づくりに向けて、当たり前の毎日にこそ感謝を申し上げ、神明奉仕に取り組み、更には次の世代に継承していくことを痛感すること頻り。▲これからも何卒よろしくお願い申し上げます。